

こんにちは！ 室長の工藤です。

今回は最近偶然見つけた新史料をもとに、敗戦後青森市に進駐したアメリカ軍について述べていきます。新史料とは、昭和20年（1945）4月12日～10月2日に野内村浅虫区長から隣組員などに宛てて出された回覧25点です。10月2日付の回覧は101号とあるのと、たびたび号外も出されているようなので、残存率は20パーセント程度といったところでしょうか。また、現物ではなく写真撮影されたものです。もともとどこにあったのかなど出所の詳細については分かりません。ただ、この時期の一次資料はとても少ないので、貴重なものと言えます。

さて、アメリカ軍の青森進駐は、当初昭和20年10月上旬と計画されていましたが、繰り上がって9月25日に本格実施されました。進駐については9月上旬までには広く一般に知られることになり、「皆サンガ非常ニ不安ガツテ居ル様」と浅虫の人々は動揺していたようです。これに対して浅虫区長は「決シテ突発的ニヤツテキマセンカラ余リあわテヌコトデス」となだめています。

そして、「米国ノ兵隊サンガ幾人カ本村ニ来」ることになったのは、9月16日のことです。この日の朝、アメリカ軍の調査団が列車で青森にやってきて、港湾視察班と交通・宿泊班に分かれて調査をしました。進駐後、浅虫が野営地になっているという『東奥日報』の記事があるのと、野内村は八戸へ向かうアメリカ軍の「自動車ノ往復モ頻繁」になるということですから、交通・宿泊班が野内村を訪れたとみられます。

また、アメリカ軍の来訪・進駐に際しては、住民に対して事前に注意事項が伝えられました。9月16日の視察班の来訪の際は「特ニ子供等ヲ外ニ出サヌコト、女ハ服装ヲ整へ化粧ニ注意スルコト」というもので、進駐直前の20日にも「婦人ハ腕ヤ脚足ヲ出サヌコト」という指示が出されました。そして、進駐当日の25日は「特ニ子供ニ注意スルコト」、「夜間ハ男女共出ヌコトニ注意ヲ願ヒマス」ともあります。

こうした注意は「事故防止」のために進駐軍から県に対して申し入れていて、女性が肌を見せることは「絶対止めるやう強調」される事柄でした。子どもについては、道路で遊ぶことが禁じられたほか、進駐軍のジープへの投石は「射殺せられる場合もある」といいます。これらの禁止事項は進駐開始後の9月27日付の『東奥日報』に報じられています。ところが、今回の史料から視察の時点から伝えられていたことが明らかになり、これまであまり語られることのなかった、9月25日以前の出来事が青森市の歴史の1ページに刻まれることになりました。



市内で野外炊事をするアメリカ兵
（『目で見る青森の歴史』より）